

如月(February)の校長 益田高校同窓会「いわみの会」入会式 (R4.2.28)

卒業式前日の2月28日、本校体育館にて益田高校同窓会「いわみの会」の入会式が挙行されました。村木 繁 同窓会会長より入会の歓迎のお言葉をいただき、校長、教頭をはじめとする16名の校内同窓教員(校内全教員のうち三分の一以上を占める)が参列し、厳かに催されました。

まずもって、3年生の皆さん、「いわみの会」へのご入会おめでとうございます。

本校は、今年度創立110周年を迎え、9月に記念式典等を行いました。この度の入会生119名が、普通科は第69期、理数科は第50期となり、卒業生総数は19,260名となりました。これまで同窓会会員の方々は、この益田はもとより県内外、国内外と、全世界のあらゆる地域において、多岐に渡って様々な分野でご活躍されておられます。

さて、入会生の皆さん、いよいよこの益田高校の学び舎から巣立ち、4月からはそれぞれが新しい環境に身をおいて生活することになります。まだ多くの入会生は、大学の合格発表前ではありますが、新生活を前にして期待や不安が入り交じった状況にあると思います。

これまでの18年間は、家族に、あるいは地域の方々や先生方に守られ、支えられて過ごしてきました。そして何よりも、共にこの学び舎で過ごした同級生の存在は、かなり大きかったはず。高校3年間、時間を共有してきた「同級生との縁(えにし)」は一生ものです。このかけがえのない友は、間違いなく今後とも一生繋がっていく大切な存在になると思います。

しかし、今後社会に出ると、もっともっと広い範囲での人間関係の構築も重要になってきます。特に、壁にぶち当たった時、悩み苦しんでいる時、相談したい事がある時に、頼りになるのが本日入会された同窓会の存在です。地元だけでなく全国各地におられる同窓会の先輩方が、必ずや力になってくださいます。決して一人で悩まずに、遠慮なく頼るべきです。それだけ高校の同窓の絆は深く、とても心強い、本当にありがたいものです。

そして何年か後には、逆に、経験値を重ねた本日の入会生が、困っている後輩達の力になってやる、そんな繋がりこそが、本会の最も意義深いところだと思います。

「いわみの会」普通科第69期、理数科第50期の後輩諸君！！

同級生、同窓生の絆・縁を大切にし、頼り、頼られながら、豊かな人生を歩んでくれることを心より期待しています。